

表68

対人関係における心理的ギャップからみた病者意識

		家族との心理的ギャップ				単身者
		よくある	ときどきある	たまに	ない	
健心 常理 者的 と の	かなりある	5(20.0)	13(52.0)	3(12.0)	4(16.0)	2
	まあある	1(6.7)	6(40.0)	3(20.0)	5(33.3)	1
	少し	5(15.2)	13(39.4)	4(12.1)	11(33.3)	4
	ない	5(12.8)	12(30.8)	6(15.4)	16(41.0)	1

注1)  $\chi^2$  test,  $\chi^2=6.59$ ,  $df=9$ , N.S., Kendall's  $\tau=.162$ ,  $2p<0.05$

注2) ここで、家族との心理的ギャップ、健常者との心理的ギャップの両方が、「たまに」もしくは「少し」、か「ない」であった者を、病者意識が「弱い」群とし、それ以外の何れかで心理的ギャップを強く感じていた者を病者意識が「強い」群とした。なお、単身者は、健常者との心理的ギャップで代表させ、分類した。よって、病者意識「強」群は78人(65.0%)、病者意識「弱」群は42人(35.0%)となった。